

IEA 石油市場レポートの概要（2015 年 5 月 13 日公表）

（代表部仮訳のため、正確には IEA のホームページを参照）

1. 石油価格は、世界的な供給増・在庫増にもかかわらず、4月から5月上旬にかけて回復基調。米国のライトタイトオイル供給の伸びが弱まったことにより、4月のNYMEX WTI 価格は3月に比べて14%上昇。これはICE ブレント価格の約2倍の増。レポート記述時点で、WTI 価格は、約60.30ドル/bbl、ブレント価格は約66.30ドル/bbl で取引されている。
2. 4月の世界の石油供給の伸びは、米国のライトタイトオイル生産のスローダウンにもかかわらず、昨年同月比320万b/dと大きな伸び。総石油供給は9570万b/dと3月から横ばい。これは、非OPEC諸国の生産減をOPEC諸国の高い生産が埋め合わせをしている結果。2015年における非OPEC諸国の供給増は、83万b/dと見込まれ、先月のレポートより20万b/d増加。
3. OPECの原油供給は、4月に16万b/d増加し、3121万b/dに上昇。これは2012年9月以降の最大供給量であり、1年前と比べて140万b/d近く増加。イラクとイランが生産量を増加させるとともに、最大の輸出国であるサウジアラビアが1000万b/d以上の量を維持している。非OPEC諸国の供給の上方修正は、2015年後半のOPEC石油への需要を30万b/d引き下げ、3000b/dと見込まれる。
4. 世界の石油需要増については、2015年は110万b/d増加し、9360万b/dと見込まれ、これは2014年における70万b/dの増加を上回る。この見通しは先月の見通しと変化なし。改善している欧州経済見通しや寒い冬がOECD諸国の需要を押し上げる一方、旧ソ連邦、中東やラテンアメリカにおける見通しの引き下げがその増加を相殺している。
5. 世界の原油精製は、2015年第2四半期においては、季節要因により、2015年第1四半期の7820万b/dから7780万b/dまで落ち込むと見込まれる。2015年第1及び第2四半期の推計は、アジア及び欧州の力強い稼働により、先月のレポートから顕著に引き上げられている。2015年第1及び第2四半期の値昨年比はともに140万b/d増であるが、その増要因は、2015年第2四半期は、非OECD諸国へ大きくシフト。
6. OECD諸国の産業石油在庫は、米国の原油が先導し、季節要因とは反対に、3月に3840万b/d増加。精製品は少し低減し、月末には、先月のレベルと同じく、先行き需要の30.3日分を賄う。暫定的なデータによれば、OECD諸国の在庫は、引き続き上昇傾向にあり、4月に3580万b/d増加見通し。